

第2回 スポーツ観光構想策定委員会 結果概要

日 時 平成26年10月28日(火) 10:00~11:30
場 所 ザ・パレスサイドホテル グランデ
出席委員 赤尾委員、西條委員、迫田委員、辻本委員、西村委員、林委員、坂東委員、松永委員
京 都 府 本田企画理事 他

◆開会あいさつ(京都府企画理事)

- ・前回の会議では情報、施設、連携等、様々な御意見をいただき、これを踏まえて構想の中間素案を提示させていただく。本日いただく御意見を踏まえ、最終的な構想として仕上げ、京都府の事業として積極的に進めていきたい。

◆スポーツ観光振興構想(中間素案)説明(事務局)

- ・配付資料により説明

◆各委員からの意見

- ・聖地づくりという観点からは、歴史が浅く、競技人口が少ないスポーツが候補となりやすいが、競技人口が少ないと観光客の動員は少なくなる。競技人口を念頭に案を考えて頂きたい。
- ・聖地化を進める観点からは既存のスポーツでない方がよく、地元の活性化の観点からは裾野の広い「学校で取り組む」スポーツがよい。Xスポーツは特殊なスポーツ分野であり、競技人口は少ない。
- ・スポーツ施設の整備は進んでいるが、公認の大会が開催できる施設は少ない。テニスの全国大会を開催するには、最低24面ほしいが1カ所でそれだけの面数のある施設は、府内にない。
- ・京都は宿泊施設が多いが、予算的にスポーツ大会に合致する宿泊施設は少ない。
- ・大会開催に当たっては、宿泊施設選びがコンディション作りに対するウエイトが高い。宿泊施設の生の意見を探してほしい。
- ・愛媛県、広島県共催の「しまなみ海道・国際サイクリング大会」ではするスポーツとして参加者が約8千人、「ツールドフランスさいたまクリテリウム」は見るスポーツとして観客が20万人あった。
- ・台湾・台中の日月潭でレンタルバイクを借りて一周してきた。レンタルサイクル屋での無料記念撮影、ボトルのプレゼント等のサービスが充実していた。京都でもそのようなサービスを提供できれば、確実にヒットすると思う。
- ・日帰りのスポーツ観戦から滞在型の旅行に移行するためには、マラソンの場合ならば、前後日にランニングのレッスン会やスイーツイベント等を行うことが有効。大阪マラソンでは、一週間前に同じコースでごちそうマラソンを行っている。
- ・無料観光ボランティアを利用したことがあるが、人材の質の差が大きい。前回の本会議にて紹介した女将の場合には、ガイドボランティアの資格を3つも取っている。観光ボランティアだけでも質の差が大きいので、スポーツになるとよりその差は広がる。人材育成に重点をおくことが必要。
- ・しまなみ海道のサイクリングは非常によい事例で、国際的なサイクリングの聖地を目指しており、イ

イベントで人を集めるだけでなく、海外に情報発信を行っている。また、台湾の自転車メーカー「ジャイアント」と連携し、今治と尾道にジャイアントの専門ショップを開いている。これらには自治体の支援があると思われる、スポーツ用レンタサイクルが 30~40 台用意され、今治と尾道の双方で乗り捨てが可能。それなりにより料金を取っており、産業化されている。その他、ママチャリも含めて合計 700 台整備されている。自転車を部屋に持ち込める宿や、サイクリスト専門の宿もある。

- ・継続的な来客につなげるまでの何年かは、事業者は食べていけないが、そこへの支援に目を向けるべき。来客があれば民間との連携も可能となる。
- ・大阪城のランニングステーションのようなことを温泉地でできればよい。宿を中心とした着地型商品の開発を作っていくことはどうか。
- ・多言語の情報発信については、単に多言語で発信するだけでなく、いかにサイトをみて頂くのかも重要であり、プロモーション的要素が重要。併せて、大会にエントリーするにも多言語対応が必要。
- ・しまなみ海道はシンガポールでサイクリングツアーとして売られている。旅行代理店との連携によるすばらしい打ち出しをしている。
- ・「続かない」ことは大きな問題であり、行政に頼りすぎてしまうと事業年度ごとに縛られてしまう。ありがたいで続かないのは、いきなり事業をぶち上げようとする。宿泊施設、自然環境、交通手段、大会をできるなどの環境があるところであれば、やりやすい。
- ・ニッチスポーツでセグメントを切ることもよいが、「教育」などのキーワードで、例えば「サッカー教育の聖地」とセグメントを切ることで他地域との差別化を図ることができる。
- ・和束町にMTBランドがある。地元の人ががんばっているので、成功確率が高い。
- ・musubi-cafe (嵐山) ではジョギングとヨガができる。「ゆるい」スポーツで女子に人気がある。
- ・天橋立トライアスロンが復活できると聖地になる可能性が高い。
- ・大会ボランティアは、競技団体が中心になっており、競技団体の役員には教員がその任務を担っていることが多く、ボランティアはその教員の教え子に関わっていることが多い。
- ・聖地を掲げていくのであれば、子どもたち自身もそのスポーツに関心を持ち、地域住民がスポーツに日常的に参加していることも大事。
- ・優秀な選手である学生が、卒業後に引退したり地元に戻ってしまうことが多い。府内に就職してもスポーツが継続できるようにジョブパーク等とも連携を模索しており、スポーツ観光とコラボできる部分があるのではないかな。
- ・スポーツ観光を京都全体として取り組むには広すぎ、セグメントを切っていないとぼやけていく。
- ・「スポーツをきっかけとした観光」と、「観光地で+αのスポーツ」とは別物であり、分けて考える必要がある。
- ・土日祝日や長期休暇中をターゲットとするのか、平日をターゲットにするのかも切り分ける必要がある。例えば、テニスコートの予約の場合、土日ならば難しいが平日は可能。そこに観光をどのようにつなげるのかを考えないといけない。
- ・どこでセグメントを切るのかは、「強み」「弱み」の分析の中で見えてくると思う。
- ・中間案は、学生を活かす観点が不足している。学生はボランティアやりたい気持ちはあるが、情報を発信するだけではだめでお膳立てがないとやらない。語学ボランティアなどの活用も可能。
- ・伝統工芸などスポーツと一見関係のないモノの強みとスポーツ観光につなげられればおもしろい。
- ・観光に来て時間ももてあましている人は結構いる。web への発信（検索のキーワード、web サイトの構成）とレンタサイクルの整備などにより、観光客にスポーツを楽しむ機会の提供に繋がる。

- ・非常によい取り組みでも、ばらばらに情報発信しているのでは観光客には届かない。京都チャンネルでは、「スイミー戦略」（小さい魚がまとまると大きな魚に見える）を取っている。
- ・webの検索エンジンで「嵐山」と検索するとなぜかマラソンの情報がでてくるなど、偶発性でスポーツの情報がとれるようなwebサイト構成を意識するとよい。
- ・新潟県十日町では、絹織物などの基幹産業の売上げが激減して地域が衰退する中、危機感を背景に昨年スポーツコミッション立ち上げた。4年前に統合型スポーツクラブを立ち上げ、助走期間として実働部隊を養成した。統合型スポーツクラブが中心となって、医療機関等とともに「十日町スポーツコミッション地域再生協議会」を立ち上げ、行政の予算はほとんど入っていない。
- ・京都府全体のスポーツコミッションは、京都市のような大都市もあり難しいと思う。オール京都府ではプラットフォームにしておいて、各広域振興局にスポーツコミッションを立ち上げるようにしないと民が動かないだろう。
- ・構想には宿泊施設を口説くキーワードがないように感じる。宿泊箇所や昼食箇所をスポーツ観光に織り込んでいくことが重要。宿泊施設をやっている人が同じ足並みをそろえられるかという観点で提言していかなければいけない。
- ・musubi-cafeでは民泊（ランナー同士の）の斡旋をしている。海外では「Airbnb（エアBアンドB）」の事例など、宿泊に繋がる仕組みがある。
- ・ゴシアカップでは宿舍を学校にしている。学生の街京都としては、大学生が子供のサポートをするなどの活用もできる。
- ・行政は2〜3年しか予算事業を行わないので、継続していくためには民の力が必要。民間の地元の皆さんを継続的に続けていくためには、イニシャルコストの面でどのようなサポートが必要か。
- ・しまなみ海道の例では、首長がサイクリストである。そして地域の人がそのスポーツを楽しみ、愛さないと聖地にならない。当初、島民は「サイクリング」を知らなかったと思うが、島外からサイクリングを訪れる人が増えたことで、自然に広がった。
- ・しまなみ海道では、メディアのサポートもあった。造船の街であり、地元資金力もあった。
- ・継続的にするならば、「する」スポーツがよい。ウインタースポーツが衰退したのは初心者には難しいところであるが、自転車の良さは、誰でも乗れるところ。
- ・火をおこす際に、種火を消さないためには、最初は忙しく扇がないといけない。その地を盛り上げるためには、束ねて発進力を強くすることも重要。
- ・行政よいところは、「箔付け」ができること。また、ノウハウやナレッジを出し合い成功事例を積み重ねることができるのは、行政の力。ご縁つなぎや成功事例の共有、種火を消さないための施策がよい。
- ・養父市では、リーダー格となる優秀な人材を（場合によっては外から集め、）サポートする事に予算をつけている。

- ・兵庫県美方郡香美町では、中心人物は道の駅の支配人である。
- ・大会毎にばらばらにやっていることを結びつけるために、スポーツコミッションは必要。
- ・指宿菜の花マラソンでは、観光協会が主導となり、菜の花を植えて満開のところを走ることができ、また、街全体がおもてなしをしている。「あの角を曲がったらあの家族があれを出している」との楽しみがあり、温泉、スポーツ+αがあることで満足度が向上し、リピーターが多い。
- ・長野県上田市の場合には、閑散期に人に来て頂くためにシニア向けの野球大会を、温泉組合が開催している。
- ・仙台の河北新聞の企画事業部にリーダークラスがおり、プロスポーツのサポーターをとりまとめて記事にしている。その組織にいる人をうまく探し出せると動くかもしれない。
- ・スポーツには、流行廃りにより一気に人気がある場合があり、支える人が疲弊してしまう事がある。その場合でも子どもが楽しんでいると親は見捨てられない。行政の予算措置がなくなっても地元の人が日常的に楽しめるためには、子どもたちが楽しんでいることも重要。

○事務局

皆さんの御意見で、構想に必要な観点は次のような点と考える。

- ・産業化は重要な視点であり、地域活性化のための事業をしていきたい。
- ・聖地化には、セグメントを切るべき
- ・大会開催で公認される、一定規模以上のスポーツ施設が必要
- ・宿泊につなげるための前日イベント等の重要性
- ・宿泊施設の協力が必要。地域構想である海の京都事業等との連携も考えられる。
- ・本日欠席の高橋委員は民宿を経営されておられるが、スポーツの宿泊は商売として成り立つと考えておられる。そのような事例も踏まえつつ、合宿誘致と宿泊施設との合わせ技などを意識したい。
- ・海外への発信などは不十分であると認識しており、もう少し深めていきたい。
- ・ゆらりーサイクリングロードで何かできないかなど、模索しているところ。
- ・スポーツコミッションは難しいとの御意見であるが、まずは各団体と会議を行い、議論を深めたいと考えている。
- ・聖地づくりについては、本日の御意見をもとにして構想の修正、補強をした上で、市町村に提示し、スポーツ観光に取り組む市町村からの提案を受けたい。